



# 新島襄と五人の門弟

師弟の絆とその系譜

徳富蘇峰・湯浅治郎・深井英五・柏木義円・湯浅八郎

志村和次郎 著

みやま文庫

若き日の新島襄は、封建的な幕藩体制に対して批判的な気持ちをいただき、自由を求め、国禁を犯して密出国した。一〇年近い米国での勉学とそれに続く、欧米教育視察（岩倉使節団）を通じて、「教育を通じて国家に奉仕する」という強い使命感と抱負をもって帰国した。

時代は明治維新改革で、国民生活にも大きな影響を与えていた。幕藩体制の崩壊とともにあらゆる分野で、新規事業が創出されたわけである。

新島は、わが国が急ぐべきなのは欧米技術の移入や産業創出というハード面だけでなく、民主主義思想をとまなうキリスト教文化、教育など精神文化が必要であるという持論を持っていた。その実現のためには、知育、徳育の並行教育を可能にするため、自治・自立の私立総合大学を創りたいというのが念願であった。

新島襄が米国から帰国後、上州安中でのキリスト教伝道の第一声以来、群馬県のキリスト教は、新島襄から洗礼を受けた湯浅治郎らの協力で、安中を起点にして急速にひろまった。群馬県にはその下地があったからである。安政六年の横浜開港に伴って、群馬の特産であった生糸の需要が急激に高まり、欧米諸国に盛んに輸出され、日本の近代化を支える有力な物産として生糸がクロー

ズアップされたのである。先進的な養蚕、製糸、織物の産業が一体的に稼動していた群馬県はその先進県であったのである。

新島襄は教育家、宗教家そして政治思想家として複数の顔を持っているが、宣教に関して、安中を起点にしたことが、新島も驚くほど幸先のよいスタートとなった。

しかし、日本の近代化をめざし、政治、法律、経済、理化学、文学、医学、宗教などの分野に有能な人材を供給しようとする、この教育事業は、膨大な資金が必要であり、総合大学の創設には大きな苦難をともなった。

幸い、山本覚馬、徳富蘇峰や湯浅治郎など同志を得て、あきらめずに挑戦する、てきとうふよき 倜儻不羈の事業家・新島襄の事業家魂は多くの政・財界人の理解と協力を得るのに成功する。遂に明治八年に、その第一歩として同志社英学校を創立、そして、翌年の明治九年には同志社女学校を設立した。

新島襄が取り組んだ教育家、宗教家の道は、決して別々なものではなく、一体的に進められた。本書では僅か一六年という短い期間で、どのように理念で成就寸前まで進行させることができたか、豊富な人脈を通じて、新島の熱誠あふれた行動力と真価に迫ってみた。

新島襄の事業素養というべきものは、国家の指導層につながる豊富な人脈にある。支援を受けるだけでなく、高い見識と技量で多くの有能な弟子たちを育て、また多くの政財界の有力者たちにも影響を与えた。新島のキリスト教主義は人間尊重の考えを基本にして、「自由」「平等」と「良

心」を基軸にして、同志の支持を得たのである。そして、建学の精神である自由・自治・自立の精神をもとに「良心を手腕に運用する人物の育成」が息づき、多くの有能な人材が育っていった。そこで、いかに新島襄のDNA（遺伝子）は門弟や後継者に注入され、継承されたかは大関心事であるので、本書では教育事業で際立った協働関係にあった徳富蘇峰を中心に門弟の湯浅治郎、深井英五、柏木義円・湯浅八郎、そして蘇峰の弟・蘆花にも触れることにした。

特に新島襄と徳富蘇峰とは約一四年間の密接な師弟関係であった。教育事業とジャーナリストと異なるが、二人の「個儻不羈たる人物」をはじめ、共通点が極めて多く、しかも補完関係があり、運命的な絆を感じる。「個儻不羈」は現代語ではむずかしい言葉で、時に訳注も必要になるが、新島襄が好む、独立心と才能あふれる人物を見事に四字で表現している。

本書では、師である新島襄の感化にはじまり、徳富蘇峰など五人の門弟たちのエネルギーな活動の源泉は何であったかを探索し、時代を観る全方向的な感受性、一歩先を読む先見性を探求することを試みた。何といっても蘇峰は明治・大正・昭和の国の指導層との交遊と人脈ネットワーク、新聞記者、新聞事業を通じた世論との接点、そして歴史家としての飽くなき研究は、他の類例をみないもので、次世代に残した影響は大きいといえよう。

平成二八年一〇月

志村和次郎

# 目次

まえがき

## 一、近代日本の先覚者・新島襄の真価

自由を求めてアメリカに渡航……………	三
受け入れられたキリスト教と民主主義……………	六
宗教家・教育家としての真価……………	九
新島襄とかかあ天下……………	一〇
京都に同志社英学校を創立……………	一三
理化学教育の同志社ハリス理化学校開校……………	一五
自主・独立を貫いた同志社の女子教育……………	一六
リベラルアーツ・カレッジ……………	一七
前橋英和女学校による人づくり教育……………	二〇
宣教と教育で貢献したアメリカン・ボードの前橋ステーション……………	二三

新島精神を建学の原点にする新島学園	二五
平等主義を貫き、権威主義を嫌う	二七
個儻不羈の学生を大事にする	三〇
コラム①上毛五偉人	三二
二、新島襄と徳富蘇峰の出会い	
熊本洋学校から同志社入学へ	三四
新島襄との出会いと面接	三七
同志社時代の勉学と読書	四〇
同志社卒業の目前に退学	四三
コラム②「自責の杖」事件	四五
三、新島襄から民主主義を享受	
民主主義思想の実践的享受	四七
新島襄の教えと人格教育	四八
新島襄の弟子から同志となる	五一